



がっこうだより

枚方市長尾西町2丁目45番1号 TEL050-7102-9176
E-mail nishinagao-e00@city.hirakata.ed.jp
URL https://hirakata.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2710079

枚方市立西長尾小学校

令和6年12月24日号

<西長尾小学校のめざす児童像>

1. 心豊かな子ども（自他を大切に
する、思いやりのある子ども）
2. 深く考える子ども（自ら学び、
創造的な思考を持ち、柔軟に行動
できる子ども）
3. 健康な子ども

さまざまな出会いと体験で、心が育ちました

—— 振り返ることで気づく、新しい自分

2学期はたくさんの行事がありました。たくさん学び、いっぱい気づきと感動がありました。そして、新しい自分も発見できました。特に、身のまわりの人とのかかわりについて、まわりの人の「よさ」をたくさん見つけることができたことと思います。それと同時に、自分の「よさ」にもたくさん気づかせてもらったのではないのでしょうか。

自分自身のことは、わかっているようで気づかないことがたくさんあります。

2学期を振り返ってみましょう。毎日新しいことを学ぶ小学校では、まわりの仲間や支えている人とのふれあいによって、成長できた新しい自分に気づいた体験が、必ずあるはずですよ。

まわりの仲間と、お互いの成長をたたえ合いましょう。そして、お互いの「よさ」を伝え合えた思いやりや、やさしさに「ありがとう！」と、感謝し合えたら素敵ですね。



<中休みに自主的に活動する子どもたち>

冬休みは、次の目標への準備期間です

さて、充実の2学期を終え、次は3学期です。さらに一歩成長するためにこの休みの間に、自分の興味のあることや好きなこと、得意なことにさらに挑戦して、磨きをかけてみましょう。「ものごと」は、実はさまざまに関わり合っています。興味のあることや好きなことを深め極めようとするのは、自分の世界を広げることにつながります。ぜひ、新しい自分をもっと見つけましょう。

楽しく非認知能力の「よさ」を体感できる創作劇活動

——非認知能力を高める意識を育みます

本校で取り組んでいる、子どもたちの非認知能力を育むための授業改善について、具体的には裏面に示していますが、その考え方をお知らせいたします。

文部科学大臣の諮問機関である中央教育審議会は、急激に変化しゆく次の時代を担う子どもたちに育むべき資質・能力を、次のように示しています（令和3年1月26日中央教育審議会答申より）。

「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要」
<※下線は校長が記入>

これらの実現のために、各学校では様々な工夫や研究がなされています。西長尾小学校では、これらの資質・能力の本質的な骨格となるものは、「非認知能力」であると考えています。岡山大学准教授の中山芳一氏の著書を参考に、本校では、児童に育みたい非認知能力を下記のように解釈整理しています。

- ・自己と向き合う力（自制心、忍耐力〔ねばり強さ・目標への熱意〕）
- ・他者とつながる力（相互理解、協調、受容・共感）
- ・自己を高める力（向上心、自尊心）

<それぞれの下線は、上記答申内に示した下線に対応しています>

これらは、育てたい資質・能力のうち、「他者と折り合いをつける力＝対話力」を支えるものです。つまり、よりよい社会を協働して創ろうとする姿勢を持った大人に育つための土台になると考えられます。

本校では、非認知能力の「よさ」を児童が体感する意義に着目し、主体的に非認知能力を発揮しようとする意識を育むことに焦点化した指導を検討してきました。

それが、令和5年度にカリキュラム化した「発達段階に合った創作劇活動」です。現在、全学年で各学期に一度ずつ、総合的な学習の時間や特別活動・生活科の時間などで実施しています。これらの取組は、児童の自己肯定感や他者理解力の向上に良い影響を与えていると考えています。

<裏面へ続く>



<発達段階に合った創作劇活動カリキュラムで得られる体験>

学年	創作劇活動	他者意識を育むために意識すること	学期ごとの指導時間
低	「ジェスチャー当てっこゲーム」(1人~6人)	主にかかわりあうことの「よさ」を体験。	1時間
中	「四百字戯曲創作」(創作・朗読~2人で発表・演技)・「グループ創作」	言葉による対話的な創作(=自己開示)の「よさ」を体験。自己肯定感を高める。	3時間
高	「グループ創作」(4~7人で創作・発表)	ひな形や設定をもとにグループで創作するなかで、グループの仲間と「折り合い」をつける「よさ」を体験。	3時間

「^{こい}語彙や話し言葉によるコミュニケーション能力の発達段階に配慮したこれらのカリキュラムのうち、特に要となるのが、「^{ぎきよく}四百字戯曲創作」の授業です。

劇の創作は、自由な心から発する作者の主体的な活動です。脳の前頭葉が発達し、他者意識が育ち始める小学校中学年頃の実践は、楽しみながら自分の表現力を実感させ、伝わり方の多様性を感じ、伝える工夫を強く意識させるものとなります。また創作劇活動は、「正解は一つではない」「たとえ間違ってもそれは活かされる価値のあること」といった「心理的安全性」のある場をつくります。

さらに作品には、子どもたち自身の捉えている人間関係観が素直に表現されていることが多く見受けられます。つまり、そこから子ども自身がメタ認知でき、教師も児童の内面を深く理解するきっかけとなることがあるのです。

子どもたちに気づきを生み出すためには、指導者に非認知能力を見立てる力が必要です。その力を高める努力の継続のため、今年度は、校内研究テーマを「非認知能力を育む授業改善の手立ての研究」とし、教職員一人ひとりが自分の任意の授業で、その工夫に取り組んでいます。

12月18日 1年生 コミュニケーション授業

「何をやっているんでしょう? あてっこゲーム」を行いました。グループで発表するのは初めてでしたが、うまく相談をし、伝える工夫を意識して発表していました。



☆日々の学校の様子は
西長尾小学校
ブログを
ご覧ください。

QRコード→



☆12月のようす

12月17日 5年生 PTA学年コラボレーションフェスティバル

SDGsについて学び、リサイクルされたガラスを使ったガラスアートフォトスタンドをつくりました。保護者の皆様にもご参加いただき、お子様と対話しながらの作業は大変に貴重なひとときとなったようです。



12月5日 2年生

道徳『せかいのくにの人たちと』文化はちがっても、共通した遊びがあることや、違いのあることについて知り、関心を持つ心を見つめます。子どもたちの自然な気付きを大切にします。



12月20日 3年生 400字戯曲創作(発表)

先日、一人一人が書いた作品を担当の先生が朗読しました。ワクワクして話を聞き、感想を述べていました。400字戯曲創作は話し言葉による表現なので比較的書きやすい取り組みです。

自分が創造した作品をみんなに聞いてもらい、前向きな反応があるということで得られる自己肯定感はかなり高いものだと感じます。



12月3日 6年生

合唱のテストです。順番に2名ずつ音楽室の向かいの家庭科室に移動します。待っている人は、自分で作った旋律を確認し隣の人とハーモニーを奏で、より良い組み合わせを模索します。



12月18日 4年生 400字戯曲創作

一人ひとりが書き上げた戯曲のうち、3人1組になって1本を選び、役を決め練習をし、教室前に設けた舞台上で発表をします。練習と発表の様子です。1枚の創作した台本に3人で楽しみながら向き合い、伝えることを意識して練習します。楽しく取り組みます。



12月19日 3年生 PTA学年コラボレーションフェスティバル(車いすバスケットボール体験)

「伊丹スーパーフェニックス」で活躍中の村上直広さんと、「B-Spirits」の代表の諸隈有一さんに講師としてお願いいただきました。

障がいのあるなしに関係なく、同じ競技に取り組んでいる、この瞬間が作れるのがパラスポーツの素晴らしさであることを実感しました。

パラリンピックの歴史や精神についてのお話もあり、誰にでもできることとできないことがある。できないことではなく、できることに目を向けようという姿勢を教えてくださいました。子どもたちの代表によるゲームの後、二手に分かれて質問会を行いました。

